

平成 13 年度財団法人農学会事業報告書

(1) 公開セミナー

本学教官の研究成果の社会への還元の一環として年 2 回農学部共催で実施した。

第 20 回

日 時 6 月 9 日 (土)

会 場 東京大学弥生講堂

テーマ 生物の多様性と農学

講 演 1. 人工林造成と多様性－産業造林と環境造林

附属演習林 丹下 健 教授

2. 生物の多様性を科学することの意義

生圏システム学専攻 宮下 直 助教授

3. 微生物の多様性

農学国際専攻 小柳津 広志 教授

第 21 回

日 時 11 月 17 日 (土)

会 場 東京大学弥生講堂

テーマ 農学新世紀：生物生産の現場から

講 演 1. 21 世紀における農学と農業の新しい役割

農業・資源経済学専攻 八木 宏典 教授

2. 持続可能な作物生産のためのフィールド科学

附属農場 坂 齋 教授

3. 20 世紀から 21 世紀への森林・林業の課題

－「持続的森林経営」実践の現場から－

附属北海道演習林 大橋 邦夫 教授

(2) 社会情勢の変動に伴い社会への還元の一環として、シンポジウムを農学生命科学研究科と共催で 4 回開催した。

① 日 時 平成 13 年 10 月 4 日 (木)

会 場 東京大学弥生講堂

テーマ 「京都議定書をめぐる日本の技術的対応」

講 演

1. 日本のエネルギーオプション

新領域創成科学研究科 柳澤 幸雄 教授

2. CO2 固定装置としての植物

アジア生物資源環境センター長 飯山 賢治 教授

3. パネル討論 コーディネーター

農学生命科学研究科長 林 良博 教授

② 日 時 平成 13 年 11 月 1 日 (木)

会 場 東京大学弥生講堂

テーマ 「狂牛病から日本を守る」

講 演 1. 公衆衛生からの提言

農学生命科学研究科 熊谷 進 教授

2. ウィルス学からの提言

農学生命科学研究科 小野寺 節 教授

3. 農業経済学からの提言

農学生命科学研究科 中島 康博 助教授

4. パネル討論及び質問

③ 日 時 平成 13 年 11 月 19 日 (月)

会 場 東京大学弥生講堂

テーマ 「2050 年、90 億人の食料を生産する」

パネルディスカッション

1. 遺伝子工学の活用

新領域創成科学研究科 難波 成任 教授

2. 在来種の再発見

アジア生物資源環境センター 高野 哲夫 助教授

3. 緑の革命の課題

農学生命科学研究科 岩本 純明 教授

4. 土壌の水利用

農学生命科学研究科 宮崎 毅 教授

5. パネルディスカッション コーディネーター

農学生命科学研究科長 林 良博 教授

④ 日 時 平成 14 年 1 月 10 日 (金)

会 場 東京大学弥生講堂

テーマ 「農工融合技術による生物資源の活用と循環型社会の形成」

講 演

1. 微生物による未利用有機資源の活用

農学生命科学研究科 五十嵐 康夫 教授

2. バイオマスを基盤とする自律持続社会をめざして

生産技術研究所 迫田 章義 教授

3. パネル討論会

「循環型社会形成のための農工融合新技術体系の構築」

コーディネーター 農学生命科学研究科 武内 和彦 教授

パネリスト 農学生命科学研究科 五十嵐 康夫 教授

生産技術研究所 虫明 功臣 教授

アジア生物資源環境研究センター長 飯山 賢治 教授

株式会社 荏原製作所 藤村 宏幸 会長

(3) 日本技術者教育認定機構 (JABEE) に対する取りまとめ事業

今年度は技術者の外部認定制度確立のための調査のうち分野専門的部分について、以下の調査を行った。

東京水産大学水産学部、長崎大学水産学部、新潟大学農学部の 3 大学で審査試行を行い本格認定の実施に向けた認定業務の実施上の問題点の調査と対策等の作業を実施した。

(4) 調査研究委託事業

① 農林水産技術会議

農林水産分野における技術者教育の実態と問題点に関する調査及び技術教育に求められる内容、水準及び技術者の在り方について、森林機能系分科会、植物系分科会、動物生産系分科会、生物化学系分科会、生物経済系分科会、水産系分科会、農業工学系分科会を設置し調査研究を実施した。

② 新エネルギー産業開発機構 (NEDO)

新技術教育の外部認定制度確立のための調査のうち以下の調査を行った。

1. 日本工学教育協会の実施した審査員の養成講習会に参加し審査員の養成に関する調査を行った。
2. 米国 ABET 等における外部認定審査に参加し、その方法等の実施研修及び調査を行った。
3. 東京水産大学水産学部、長崎大学水産学部、新潟大学農学部の 3 大学で審査試行を行い、本確認定に向けた審査基準、審査方法等の課題を調査した。

(5) 財団法人農学会の活性化

① 農学に関わる学協会の連合体である日本農学会、大学の協議体である全国農学系学部長会議、日本学術会議第 6 部、その支援を受けた日本農学アカデミー等の組織と連絡

を取りながら本財団の農学教育の向上を目指した活動を開始した。

- ② 本財団の寄付行為に定められている目的を実現するための方策として、シンポジウムを4回開催した。
- ③ 自主的財源による事業拡大の方策として、弥生講堂内において学会等に開催された諸団体の要望により備品類（液晶プロジェクター、スライドプロジェクター、展示パネル等）を購入し貸し出し業務を行っている。

(6) 会議開催について（理事会：評議員会）

平成13年度中に理事会・評議員会2回開催し、主として次の事項について審議した。

- ① 平成13年度、事業ならびに決算（案）について
- ② 平成14年度、事業計画ならびに予算（案）について
- ③ JABEEの取りまとめ事業について
- ④ 調査研究委託（農林水産省）、新エネルギー産業開発機構（NEDO）
- ⑤ 財団法人農学会の活性化について